

市民の安心と笑顔のために

No 399

2026年3月11日 日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221/fax 218-5124

■公債費、新MICEなどを見直し対象に

「今後10年の財政推計」を問う/3月2日予算委 太田秀子議員



3月2日の予算特別委員会で太田市議は、来年度予算編成の過程で市が示した「今後10年間の財政推計」という財政運営の見通しについて質問をしました。

財政推計では、改善に向けた対策を行わなければ、5年後には「活用可能基金が枯渇する」、2043（R25）年度には、国の指導下で再建に取り組む「財政再生団体」となる可能性があるなどと想定しています。

太田市議は財政危機を強調し、今後、市民生活こそ厳しさを増していくことが予想される中で、市民サービスが削られることがあってはならないと、強く求めました。

2025年度予算編成時の中期財政フレームでは、2026年度、基金から353億円を活用する見込みでしたが、2026年度、基金活用額は予定より143億円少ない210億円と好転しました。太田市議の、好転した要因についての質問に、財政部長は、「市税が増加したことに加え、各局の事業見直し、経費の精査から好転した」と説明しました。

さらに太田市議は、歳出の一般財源のうち、扶助費や公債費、職員費の義務的経費と、除雪費などの準義務的経費は削減が難しいものの、義務的経費の中の公債費は見直しの余地があると指摘。建設事業費の増加に伴う市債発行額の増加や、利率上昇に伴う利子の増加、市債の償還額も膨らむため、市債発行額を見直し、削ることと、あわせて新MICE施設事業費として、2028年108億円、31年・32年は、それぞれ185億円を投入する見通しを立てていることについても見直し検討の対象とすること、毎年の予算編成において、市民サービスの維持・向上に努めることを求めました。

■通常時の早期着手へ/生活道路の除排雪 3月2日予算特別委 吉岡弘子市議

吉岡市議は、記録的な積雪でスタックする車が相次いだ生活道路の除排雪、雪山で見通しが悪いバスターミナル周辺の除排雪問題を取り上げました。

市内では1月下旬に記録的な大雪が直撃、2月に入っても断続的に雪害が繰り返されました。こうした状況から、2月19日の共産党の代表質問に、秋元克広市長が、「(生活道路の除排雪について)市民ニーズも踏まえ、少しでも早く着手できるように検討してまいりたい」と答弁しました。



吉岡市議は、「市長の答弁は大雪時だけではなく通常時、平年並みの降雪時における対応としても検討されるとの認識でよいのか」と確認。雪対策室長は、平年並みの降雪シーズンにおける生活道路排雪作業の前倒しについて、現在検討を進めていることを明らかにしました。また、吉岡市議は、厳冬期でもプラス気温となり生活道路の路面悪化が引き起こされていることに、「生活道路の路面の圧雪厚30cmを薄くすべき」と要望。小規模のバスターミナルについても、出入口の除排雪は安全確保が必要であると特段の配慮を求めました。